

令和6年度 学校評価の結果について

Ⅰ 令和6年学校評価結果による課題と改善策

別紙「令和6年度 学校評価の結果と状況分析」を踏まえ、学校として次年度に向けた課題と改善策について以下のように検討した。

課題1	○相手の良さを認め合い、思いやる言葉遣いで会話する力の育成 教員の言葉遣いについて、呼び捨ても含めて気になるとのご指摘が3件も挙がった。服務倫理委員会は毎月行っているものの、児童生徒への言葉遣いについて改めて考える機会としたい。
改善策	①普段から「さん」「くん」付けて呼ぶことの習慣化。 ②児童生徒の手本となるような丁寧な言葉遣いの日常化。 ③いつ、誰に聞かれても誤解されない会話の中身・内容についての意識。 ④服務倫理委員会におけるチェックシートやポスター作成での意識啓発。
課題2	○ICT を利用した効果的な学び 保護者の回答で、使用しているか「分からない」との回答が4名挙がっていた。あくまでも効果的に学習のためのツールであり、使用することが目的ではないものの、どのように保護者に伝えていくか、また、小学部・高等部教員の「良い」の評価が、他の項目と比べてかなり低かったため、改善策を検討していきたい。
改善策	①ICT 機器とはどういったものかについて、保護者への丁寧な説明。 ②授業参観や行事で使用している場面の見学、学級通信や懇談で使用場面の紹介。 ③使用している様子をHP や note でアップ。 ④教員へ一人一台タブレット端末の支給の検討、研修会の実施、スキルアップ、活用例の共有。
課題3	○地域と連携した学びの充実（次年度の重点目標） 地域の人的・物的資源の活用は今年度の重点目標でもあったが、これからの社会で必要な資質・能力を確実に身に付けさせるため、地域と連携しながら、個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びを一層充実させるためにはどのような方策が考えられるかを検討していきたい。
改善策	①ゲストティーチャーの招聘、職業科における地域との連携。 ②地域に出向いてつながりの構築、地域社会へ貢献できるような活動の工夫。 ③交流及び共同学習、居住地交流の充実。 ④今まで行ってきた地域連携や体験的学びを集約して共有。